

01 S.ハーシュの「ノルドストリーム」報道、その後の経過

Global Times
Feb 09, 2023

US urged to explain Nord Stream blasts after Pulitzer winner's probe

**米国、ノルドストリーム爆発について説明を求められる：
ピューリッツァー賞受賞者の調査報道を受けて**

<https://www.globaltimes.cn/page/202302/1285165.shtml>

By Wang Qi



デンマーク国防軍司令部が公開した、「ノルドストリーム2」のガス漏れを示す写真

2022年9月27日、デンマークのボーンホルム沖でデンマークの迎撃機F-16から見たもの。

ロシアと欧州を結ぶ2本のガスパイプライン「ノルドストリーム」で原因不明のガス漏れが発生し、妨害工作の疑いが出ている。

以下本文

.....
世界に衝撃を与えたガスパイプライン「ノルドストリーム」の爆発事故から約5カ月、米国のベテラン調査ジャーナリスト、シーモア・ハーシュの記事が、爆発事故の犯人は米国であると告発した。

米国は頭ごなしにこの告発を否定したが、ハーシュの記事は直ちに米口間の激しい言葉のやり取りを招き、地政学に波紋を広げている。

中国の専門家は、これまでの米国の行動を考えると、ハーシュの報告書は信憑性が高いと考えている。そしてワシントンが否定しても、この報告を手掛かりにもっと証拠を掘り起こそうとする動きが強まるだろう、とりわけロシアの決意は固いものとなると考えている。

ロシア外務省のマリア・ザハロワ報道官は、2022年の「ノルドストリーム」パイプラインの爆発事故について米国の役割を説明するよう求めた。

ザハロワはテレグラムのページで、「ホワイトハウスは、ハーシュが指摘したすべての事実について説明しなければならない」と述べた。

これに対し、ホワイトハウスの国家安全保障会議のワトソン報道官は2日、次のように述べた。

「調査記事は "全くの虚偽で完全なフィクション" である」

また、CIA と国防総省も同様の趣旨でこの疑惑を否定した、と報道されている。

85歳のピューリッツァー賞受賞者であるハーシュは、2日、個人サイトで記事を公開した。

そこで彼は、ホワイトハウスの高官が国家安全保障の専門家チームを組織し、9ヶ月間にわたって秘密討議を行ったとする。そしてノルドストリーム・パイプラインを破壊する計画を立案したと述べた。

同記事は、この計画を直接知る情報源を引用し、作戦の多くの詳細を明らかにした。

NATOの海上演習を隠れ蓑に、米海軍のダイバーが爆発物を仕掛けた。

NATO加盟国であるノルウェーの偵察機が、起爆装置のボタンを透過した。2022年9月26日のことである。

作戦は6月に連続して行われる予定であったが、バイデンはこの作戦を一旦保留した後許可した。

誰が犯人なのか、最終的な判断はくだされていないが、すでに、アメリカ、NATO、そしてスウェーデンとデンマークの各国調査団は、爆破が"妨害工作の結果"であることに関しては一致している。

決定的な証拠をつかむ

2022年9月のノルドストリーム爆発事故の直後、一部の米国メディアはロシアが犯人である可能性が高いと非難していた。

しかし、ハーシュは、自国の政治的エリートは、事件前の発言に関して、パイプラインを破壊するインセンティブをより強く持っていると書いている。

2022年2月7日、ジョー・バイデン米大統領は次のように脅した。
"もしロシアの戦車や軍隊がウクライナの国境を越えたら、Nord Stream 2はもう存在しなくなるだろう"。

2022年9月、西ヨーロッパで深刻化するエネルギー危機の影響について、米国のアントニー・ブリンケン国務長官は記者会見で、次のように示唆した。

「Nord Stream の停止は、ロシアのエネルギーへの依存をきっぱりと取り除き、ロシアが政治的目的のためにエネルギーを武器として利用するのを阻止する絶好の機会である」

中国社会科学院の米国研究専門家である呂祥氏は2月20日、環球時報にこう語った。

「バイデン氏が一般市民で、誰かに脅しをかけたとしよう、その後に米国のどこかでパイプラインの爆発が起こったとしたら、彼は強い動機があると解釈され、米国検察当局によって法的責任を負うことになるだろう」

ハーシュは、1969年の米軍によるベトナム民間人虐殺や、2003年の米軍侵攻後の米軍によるイラク人捕虜への残虐行為に関する調査で、その信頼性を証明した。

そのことが、呂祥にノースストリームパイプラインの爆発事故に関する最新の調査を信じるようにさせた。

「たとえ100パーセント正確でないとしても、つまり、このような怪しげな活動の暴露が100パーセント正確であることはありえないとしても、どこからともなく作り出されたものでないことは間違いない」と呂祥は指摘した。

ニューヨーク・タイムズやワシントン・ポストを含む米国の主要メディアは、米国新聞の一面を飾るにふさわしいこの件について、報道時点では沈黙を守っている。

呂氏は、この一貫した沈黙は、米国メディアと米国政府の緊密な連携であり、たとえ決定的な証拠をつかんだとしても、それを否定し、抹消する戦略であると推測している。

中国外交学院国際関係研究所の李海東教授は、米国は天才的な嘘つきであると語った。

ハーシュの勇気は賞賛されるべきだが、アナリストは彼の安全性を懸念している。

破壊されたパイプラインから最も利益を得たのはアメリカであることは明らかである。

「もし、米国が破壊工作を行ったのなら、米国は間違いなく証拠を隠滅し、国民を欺く方法を慎重に積み上げているだろう」と李は言った。

李氏は、このような国際的な紛争を担当する法的組織がなければ、法的な立証は難しい、と述べた。

米国が犯人であるという証拠をさらに裏付ける事が出てきたとしてもとしても、ほとんど不可能である。

しかし、この調査報告書は、ロシアがより多くの証拠を掘り起こすという決意を強めるだろう、と彼は言った。

この爆発に対する欧米の指導者たちの反応も、米国への疑惑を深めるものだった。当時の英首相リズ・トラスがプリンケン氏に「終わった」"it's done"とメールを送り、ポーランドの元外相が「米国に感謝する」"Thank you, USA."とツイートした。

2023年1月、ロシアはノルドストリーム1、2のパイプラインの穴を調査していたスウェーデンとデンマークが「何か隠している」と非難した。そしてロシアが共同調査に関与できないように妨害した。

「アメリカが犯人であろうとなかろうと、ヨーロッパの振る舞いはあまりにも従順である。

ロシアとウクライナの紛争が激化するにつれ、欧州が安全保障問題で米国と交渉する余地がどんどん少なくなっている。これは悲劇的だ」と李氏は指摘した。

李海東は述べた。欧州の政治家は、米国に盲従することが最終的に欧州に利益をもたらすのか、それともその逆なのかを考えるべきだと。

そして、欧州は自律性を効果的に強化するよう促した。

「さもないと、ノルドストリームの爆破のような事件が再び起こります。
そしてその代償は再び米国ではなく欧州が払うことになるでしょう」

カテゴリなしの他の記事